



家中央のホールは「メイン展示室」という感じ。写真右手がダイニング。「展示室」ごとにさまざまなコレクションを並べられ、かつ暮らしの中で自然に使うことができる

ECOな暮らしを創る人たち

地球にやさしい家づくり、というのはたやすい。だがいろんな夢の詰まった個人の住宅で、さまざまな希望をかなえながら、なおかつ環境に配慮するのは簡単ではない。その最前線で活動する人たちの姿と実例を追う



Vol.01 中道哲也さん デザインオフィス・スタジオパートスリー

中道哲也さん(左)と平田徹也さん(INA X和歌山営業所、右)。平田さんは、中道さんとの会話がきっかけで、使い方などできるだけ丁寧に住まい手に伝える努力をするようになったそうだ。「特に超節水ECO6トイレは、気づかないうちに節水しているの、その意義が環境について意識的に伝えています」



ダイニング奥からの見返し。左手のキッチンは収納でホールと仕切られている



2階に置かれた浴室。写真手前に見える浴室の扉は外部用のサッシを流用。コストを抑えつつ、開放的な浴室を実現する

1。「イスは飾るものではなくて、座ってナンボ」と考えた中道さんは、暮らしの快適性だけでなく、いくつものイスが「使える」家づくりを考えた。そして、まるで小さな美術館のような家が完成する。家の中央に、トップライトをもつ明るいホールがあり、各部屋は「展示室」のように周囲に配されているのだ。各「展示室」のしつらえ方で、さまざまなイスを暮らしの中にフィットさせる。家族の暮らしや場所性だけでなく、イスについても真面目に考えたことで、こうしたユニークで、かつ美しい家になっている。

環境との関わりについて「自然素材や健康材料を使うのは当然として、風通しのいい家をつくりたい」と中道さんはいふ。地域性もあるのだらう。家族の希望や使い勝手やデザイン性、そんな検討事項に風の通り道も加わる。それは人が暮らす器として、家は自然と

Toilet & ECO



エコな暮らしを支える超節水ECO6搭載のサティス。洗浄水量は旧来型の13ℓから6ℓへ。ここではコレクションのイスのひとつのような美しいフォルムも魅力だ

デザインオフィス・スタジオパートスリー
和歌山県御坊市島686-1
電話：0738-24-3343
Eメール：info@Stpt3.com
ホームページ：http://www.Stpt3.com

撮影/後藤徹雄(この2ページすべて)

大切なものと自然に触れ合う
さまざまな目配り

和歌山県で設計活動続ける中道哲也さんは、「凝り固まったものはつくりたくない」に「心がけている」という。中道さんの開くホームページを見ると、これまでに手がけた作品が見られるが、いずれもスタイリッシュでありながら、どこかやさしい感じが漂う。それは、自分の考える建築を目指しながら、一方で住まい手のことや場所性といった視点を忘れていないことを物語っている。

中道さんは自分のデザインを「我流」だと笑う。著名なアトリエ事務所に勤めた経験がないことでそう自嘲するのだが、逆に見れば師匠にも教わらずに作品群に見られるデザインの建築をつくるには、相当勉強したことがうかがわれる。設計はデザインセンスだけではできない。センスを磨く努力を惜しまないことはもちろん、材料や工法などを学び続けること、職人たちから机上では学べないことも謙虚に教わることなど、さまざまな条件をバランスよくこなすことで、初めて建築が美しい姿を見始める。バランスのいい目配りこそ、いい建築をつくる条件なのかもしれない。

たとえば写真のA邸。Aさんは、なかには100万円を超えるものもあるというイスのコレクター